

27-66

特16  
825

下澤保躬編輯

津輕古今神社考諺解略

014400-000-7

特16-825

津輕古今神社考諺解略

下澤 保躬/編

M15

ABB-0769





津輕古今神社考諺解畧

陸奥國弘前

下澤保躬編輯

陸奥國、南津輕郡、猿賀村鎮坐、猿賀神社ハ、青森縣廳と距る事、南方九里餘よりて黒石舊城下より一里許尾上村の西、十餘町あり、舊弘前城中より貳里廿八町也、本社祭神ハ上毛君竹葉瀨命の御弟田道公命なり其來由と尋るよ、人皇十代、崇神天皇の皇子と豐城入彦命と稱す、其御子、倭日向武日向彦八綱田王命と稱す、其御子彦狹嶋王命と稱す、其御子と、御諸別王命と稱す、其御子と大荒田別王命と稱す、其御長子と竹葉瀨命と稱す、其弟二の御子ハ田道公命にして即掛卷毛長と崇神天皇の五世の皇孫に、ましくけり、さて豐城入彦命より世、東國に於て大勳功と顯一玉ふのみなトす或ハ垂仁天皇五年よハ八綱田命ハ將軍となりて狹穗彦王謀反と討伐し、大荒田別命ハ應神天皇の御代新羅國と伐て大功と奏し、又王仁と云物識人と徴して儒學と我朝を開しも此命也、斯て父祖代々東國十五箇國の都督とも



兼帯して善政と施されければ、人民其徳と仰きて代々の靈を神と祭れる事  
の延喜式及諸史に詳なれ、今畧之、抑田道公命の天資至誠神武英邁にま  
しませば東國の更也、其頃全國は比ぶべき人なきと以て、朝廷の思食も厚  
く、人民の歸服するも多かりければ、人皇十七代仁徳天皇五十三年新羅國朝  
貢と欠と以て夏五月竹葉瀨命と遣して、之と責しむる途中白鹿と獲て還  
り天皇よ、献す、因て更よ其弟田道命よ、精兵と授てせめ伐しめられしに、  
命の謀畧と以て、大に勝利と得、數百人と斬殺し又四邑の人民と虜て歸り  
玉、其後同天皇五十五年蝦夷叛くまた田道命と將軍として、征討しめ給ふ、  
蝦夷皆其武威の盛陸なるは恐怖て歸服の色と顯しければ、命の永く王家の  
患と除んとして深く東奥脊面濱に責入來りて、其巢窟と悉く探索して之と  
殺し、又の服さしめんとして玉ふに其會長と初め、皆降服しけり、爰に蝦夷の  
中に惡逆無道の者ありて、一夜密に行岳の軍營に、火と放つれ折節烈  
風猛火となりて將軍の將士、或の討れ、或の焼れて命も、勇威と舊ひて働さ

玉ひしか共主從僅に遁れ玉ひて、再官軍と催して、其賊等と討伐し玉はんと  
せられしに身疵と得玉ひて、遂に淺瀬石川の川上よ於て薨し玉ふ 此川上の道  
郡への古の通路なり笠  
松峠も此山中也と云 於て是其從者等嚴重に葬り奉りて、都に歸り其旨と奏  
し、又命の御手に纏玉ふ處の手纏を取て、形見の爲にもやと命の妻、命  
に與へたれは是と夢玉ひて命と慕ふ悲歎のあまりに其手纏と抱て縊死け  
れ、聞人皆其貞烈に感動し、涕泣せざるを、斯て其後蝦夷亦蜂起して人  
民と畧し腦し、又田道命の墓と掘き乱暴よ及ひしか、命の神靈顯れ大蛇  
墓より出て目と噴し、粉萬の蝦夷と喰殺し、又毒氣を影しく吐ければ、蝦夷  
多く死亡して、只一二人免と得たりしと云故に時の人田道命既よ死せし  
かと、其神靈の在すなりとて、是より後蝦夷怨れて命の墓邊と通行するも  
のなく、却て其神靈と崇敬して祈誓するに其靈驗著明して何事と祈ると  
雖其的實なる應護なしと言事なれば、人民皆之ヲ仰て神蛇大神とせり時  
に仁徳天皇七十一年大臣武内宿禰命奏、曰田道公命立切東西近時靈驗



屢顯焉東夷大懼今祭祀此灵津輕而宜鎮守東北乃卜日撰地云、東陲仍<sup>テ</sup>以安云々また欽明天皇廿八年天下大水あり當郡殊に甚し此時邑民某なるもの灵夢<sup>ハ</sup>因て神灵と淺瀬石河岸よ<sup>ハ</sup>迎奉りて之と鍋木洞中<sup>ニ</sup>祭る、是より去河神と号す後作猿賀某其後依木宮守と稱す齋明天皇御宇阿倍臣比羅夫蝦夷及肅慎國と討伐の時大に之と祭りて、鎮國の神といひ又桓武天皇延歷年中、征夷將軍坂上大宿禰田村曆、屢々東夷討伐の爲に祭り大、同二年勅と奉て宮社と結構す此間欠文多し治承二年八月當國々司藤原秀衡修理、建久年間以來津輕家代々修營、又建武年中、國司源中納言顯家再營、延文年中安倍庶季再建、應永より明應年中迄安倍氏浩營度々也、天正年中以來從四位右京大夫津輕爲信本社へ猿賀新屋高木の三村五千石と寄附せしより、再ひ古へに回復せしが如し、併明治維新までハ兩部習合の社よて其別當と猿賀山神宮寺と云また神号と深砂大權現と号しと神佛混浴仕分の時に朝旨と遵奉して往古の眞神に復せしなり即舊弘前藩知事從四位津輕承昭

朝臣 十三城主左衛門尉藤原秀榮朝臣より二十六世の裔なり より神祇官へ上申明細調之中

一猿賀神社 式外禮廳 崇敬之社 神主 工藤穗波 〔後改依木〕 宮社間數並大小建物

本殿 八尺間三間 四方柿簷 瑞籬七間 土間神樂殿云々 御手洗所 八尺四方 板フキ 鳥居三

宇神橋一ヶ所祭神 上毛君田道神靈 右者大同二年再建ナルヲ勸請ト書

損祭日八月十五日 社地 東西十八間半 南北二十間 境内地 東西五十二間 南北六十間 御手洗池 東西百二

間南北九十間 造營公廡 下畧

一本社應永中以後當郡各所よ土豪城塞と營築して干戈と争が爲に神領とも掠奪して己が所有とせるより古記類多く亡失し因て神主の遠祖依木宮守より中興の宮守宣安の代迄累代の事實不詳とあり、宣安ハ寛正三年大光寺城主安倍某より再び本社神職と被命二千疇の場を受領し、又其近臣工藤新左衛門祐雄と云と、俾養子とし後莊大夫と稱す祐雄か子と字大夫祐政と云此人武勇有て輕卒數拾人を預り、仲使の締と勤と云是より工藤と改苗して代々藤崎城主、安倍氏並大光寺城主よ附屬せり弘治年中



神宮寺隼人と云ものも來りて大に當社に威と奮ふ処後乳井村毘沙門天の別當福王寺に亡さる云々宣安より十二代勘大夫助國の代爲信朝臣より若干知行と賜ふ宣安より今の穂波に至り二十四世と云

因云大光寺城の初め津輕氏築けり後安倍氏葛西氏南部氏龍本氏は據る龍本遁れて後乳井大隅之に居る後津輕在馬頭建廣居る後又壞之

一舊神官の内慶長年中今和泉大夫後工藤連大夫後奈良岡神大夫後小野と云三人を爲信信校の代に社人職になされしと云舊藩記にあり

一本社古今の靈驗記の他年別冊に上木すへし、其中大概世人の祈て應驗あるは、軍陳、文武、道藝、天下泰平、國家安穩、家内安全、諸病退散平愈、商業漁鹽、渡海、百穀豐熟、縁談等としめとして凡て人間身上に就て祈りて驗なきのなるとり故に舊曆正月七日に其歳の豊凶と占ふ神事有りて貴賤群集し同十五日にも神事あり殊に舊曆八月十四日十五日の例祭にて遠近國々の人々までの參詣して大凡十四五萬人に至ると云此外日

々夜々年中詣人絡繹として絶る事なし

一旅宿の舊神官の内並當村の中、又尾上村、黒石等より上中のはたと屋敷多われ諸人の便益のいふもさなり

一本社の四方に清流あるのみならず總ての眺望よろし、南方秋田縣領界の山迄に直徑五六里あるか故に連山如波濤、小栗山及小澤の松原遠く東西に連り各村の家屋園林の畫圖の如く、又大鰐の阿闍羅山より三角山、黒森、八耕田、東嶽、なと山又山と打かさなり、或は雲の棚引、或は雪は帯、殊に梵珠岱、原子山、金木、薄市等の諸山の肩に似て淡く、西は岩木山より大間越の白神嶽迄見渡されて絶景言語に述かたし、又南に平河東北に淺瀬石川の流あり、また大鰐、藏館、温湯板留の温泉場も程遠かたさるなり

一社中の池に涌泉川の如く、故に此水と以て數千町歩の田地に注げり、曾てきく、此水の往昔湯水の時、本社に祈ふ忽然として涌出せしと云爾來各村、數千町の田に疏通して其益廣大也、又此池昔は甚大なりしと云、蓮華



の盛りハ遠邇の詩人騷客群集せり鮪鯉又多又一眼の魚 住といふ

一 靈泉二箇所あり以て御手洗と一其清き事絶類也病人眼と洗ひ頭を浸し或ハ汲て家ニ歸り其靈多し或ハ藥と練り硯水となし功また莫大なり流末田地に注ぐ

一 汗石の川上ハ古跡多し神の腰懸石と云ありて寒中も此上に雪積る事なく靈異多しまた御神田といふあり其他委ハ別冊ニ記すべし

一 社中茂林に群鳥數萬の巢あり鳴聲心耳を澄せり又宮殿に古今の能筆善画及詩歌連伴の扁額多し其中槐堂上田昌榮代作の一を掲ぐ

夫神依人之欽敬以増靈威人賴神之呪助以得嘉福往歲家母患脚疾發腫瘡千萬醫療無一驗百般奉養無片功痛亦已甚頑兒不堪憂悶之至嘉永四年辛亥五月十一日詣拜此神廟以懇祈平愈心期果得平愈則將表章靈驗於扁額以掲之干神廟也居無幾病患釋然其愈如洗嗚呼揭焉哉乃敬掲扁額于廟前以爲拜賽併使衆人一大知神之靈驗苟能衆人加欽敬

則庶幾其有稱增靈矣哉誠恐誠惶敬白安政二年乙卯七月盛景行再拜稽首此外津輕家代々奉納物並門葉人々の願書寄附物等若干あり又工藤玄昌父子の寄進の銅燈等二箇ハ美觀なり

一 明治十二年十月青森縣士族高木順藏周旋盡力よて北海道後志國島牧原歌村、田中勇次郎、神官神原勇、以下本社と積年信仰の餘、御分靈と奉招て同村ニ安置せり凡て北海道の人民ハ志厚くして年々數万人參詣せり、また本年一月中議官從四位佐々木高行卿本社に詣られ一時の祝詞

掛卷毛畏支此乃陸奥國、南津輕郡猿賀村、猿賀乃社爾、大宮柱太敷立、高天原爾千木高知豆鎮座坐、上毛君田道神乃御前爾、慎美敬比畏美畏美申須、此度高光我大君乃御勅乎被里以豆。臣議官從四位佐々木高行、斯乃陸奥乃國爾來人民乃現在乎視巡留隨意爾此乃宮爾詣豆奉留此大神乃御稜威乎此天下知食我大君乎始米天皇帝乃御門邊乃事執豆事戶奉留百乃司人臣等比禮懸留八十伴乃男手始米、蒼生草爾至留迄手乃麻加比、足乃麻加比不令在其様大艦乃春海



乃朝潮爾浮出多留如久長閑雨浦良加爾事遍奉良志給止慎美敬比畏美畏美言須  
明治十三年帝一月七日 議官宮内省御用掛從四位佐々木高行  
幣帛金若干圓奉納せられ又、道田命碑文のひがたとも染筆せられて神官かみと與へられ  
給ふ誠まことに有難く尊き事なり

猿賀大神能御前爾奉流詞並歌

かけまくもかしこかれともこれの大所に宮柱太ちく立て鎮りまます、上  
毛君田道命たのみちのみこととた、へこと竟奉御前をつ、しみるやまひかしこみくもま  
とさくおのれ年頃つるさ太刀みいつかいこき大御靈おほみたまのふゆとか、ふりま  
つりし禮代れいしろと梓弓しづまゆみ眞弓まゆみ槻弓つきゆみ品々の直さ清きまこ、呂ろの歌とも人々よ乞こひ  
得ておのれも讀よみて千箭ちのやの鞆たもとのまかこ矢のや一つトまかきつつなめて奉る、  
と安夫佐波やすぶさ受見行うけみゆきままりて不良ふりやうとおもほしまさ牟むををハハひろ鋒ほこ廣ひろさあつ  
きみこ、ころなこやかよ見直みなお開直ひらままりて、今よりのちもとこしへよ  
家いへも身みもまかことああとせせば、いくみ竹たけよの守り赤良引あからひき日の守りに守り

幸さいひ玉たまへと祈りまます事のよしと、ますトとたけとの々る駒の耳とくきとし  
めさえとままとす

時鳥啼ときどりて木傳きでんふ聲こゑす也猿賀さるがの社やしろの五月雨ごごのあめの空 稻木富保  
御劔みよるぎといいまひ祭まつりふ猿賀山さるがやま尊たつみさる鴨かめ畏おそさるかも 今村眞種  
おおいぬかる田道たぢの尊たつみい神かみさひてまつまつまりませる大官所 金原長延  
深砂ふかすなの神かみの官居くわんいのまな清水伊豆しみずいづの御玉みたまと共に尽つせし 武田廣道  
神かみさふる杉すぎの木きの間まは千木高ちぢくたたてる猿賀さるがの宮みやり尊たつみき 下澤久輔  
古いにしへへの平ひらの御代みよしろゆ猿賀山さるがやまさか行ゆききゑゑハハかきりままトとえす 宮本繁樹  
玉手次たまてつぎかけてり祈いのる大神おほかみの深ふかき幸さいひと万代まんだいまでよ 植田正健  
皇軍きうぐん跡あともひましてああトとえみしむむけ平ひらけけああううハハ此神こゝのかみ  
非言ひごんを人ひとないひひろね猿賀さるがハハや田道たぢの命いのちの大官所 岩間苔生  
おおすめおおけささるかの宮みやに鎮ちぢりてみみいつ畏おそききこの大神おほかみ 岩間 滴  
さるか山かみやま有あふる池いけいいハハ廣ひろく深ふかめくみみろろここひひままトとすも 鶴屋有節



うつゆふの猿賀の神の御靈代御太刀いそひしこれの大官 藤岡並樹

文久二壬戌年五月吉日

東路のあとふるえうとことむけてきたぬ玉ひー神の大官 大足

まつろはぬ蝦夷ことくまつろへて大蛇と化りー御靈長し 滴

おーねかる田道の尊津輕なる猿賀の官の神にう有ける 道廣

人まねふ猿賀の官よ千木高く大官しきて鎮座ます皇御神は言まくも

畏かれども大君の御言か、ふり鳥か鳴く東の國の夷トとむけ平くと皇軍

の君としまして仇ともときたぬ玉ひぬ其あたのたばかりわさぬと玉の

夜よーぬひ来てしかくーよなり玉ひぬれかくつさもあはかんしトよ畏こ

くも大蛇と化りてことくーに喰そふトかしことくーよ平けませる大み玉

こ、よいとひていにーへゆ尊みまつる大官所

反歌

言まく母あやに畏ー大神の高く尊き神みいつとや

正健

いにーへの平の御代よ駒のつめ都賀瑠の國の蝦夷等の荒備おとりて和

田の外の鞆鞆の國の多夫禮良もともよさうひて畏ーこくもおろひ來ぬれ

の大命命か、ふりまして大御先鋒田道の尊い糖ヶ嶽善知鳥の濱よ御陣屋

いとなみつくり仇ともとくゑはト、かーふみさくみかなくりよふりうち

罰めもりべとおきて行岳の城よやすトへの其ひまどうかひつとも藤衣荒

えり遠はうゆくりなく火とかけとなつ皇軍のかりやと焼ぬ尊とやいとか

くれぬれみかえねとみ葬めにしとやうともりのおくつきとほりうかち

わはさーかトに尊きや大蛇と化りて賊等と追しき追伏喰ころー、たけひ玉

ひし、みいさとの類あトぬの人似真ぶこれの猿賀に宮柱太敷たて、從古い

はひまつりて深砂の神の尊と畏しこくもた、へ奉れる是の大神

反歌

猿賀のや池のみぎはに宮はしトふとーくたてし深砂の神

いにしへのしこの仇とも大神の大蛇となりてくひはふトすも



人まねふごるかの宮の宮ハ一も麗一さ宮をり立のよろ一さ宮杉群のあつよ  
生立、眞清水の清く漏出、御池ハさやげく深し池中ハ蓮葉茂り大宮ハ千足  
大宮、大神のみ玉のふゆを万世一乞祈まつる世の人われ母

反歌

正健

玉手次かけてういのる大神の深き幸ひと万代までよ

砂深トハ後世兩部習合ノ時ヨリ号セル名ナリ猿賀ヲ初メ去

河ト書ク是レ本字ナリ

一 本社に八景あり保躬應需詠たる蜂腰と耻と忘れて記さんに

鍋木舊跡 もりの名の鍋木ハ朽てあつた一く神のみあらか建初にけむ

牛森暮雪 うし杜ハ雪やふりけん冬の日のくれても暮ぬ色ハ見えけり

公園櫻花 春ごとよ群來る人のこゝろまで花になりてもみゆる花すの

小田崎眺望 落る雁昇る日影もうらぐくと見渡すとたのこきを遙けさ

清水坂納涼 漏かへる音さへす、し清水坂身よしむ風のいろハみえねど

天女池秋月 池の名のあまつ少女もあつふとん水やりトなる秋の夜の月

猿賀杜鳥 仰さ見るさるかの杜の千木高く巢こもる鳥の聲さわぐなり

田道命碑 たぐひなき田道の命の御いさとの世々にのこれとたて一碑

○ 古來津輕郡ニ古跡多し舊記に寺社凡百八字と記したれ共不詳其中今に

あつたれたるもの岩木山神社、乳井神社、村市毘沙門廻り五丈の  
大杉あり、浪岡八幡宮、

入内神社、春日内観音、古縣不動、同八幡宮、横内大星神社、羽黒山、細越

山王、弘前熊野神社、深浦観音、藤崎鹿島、八幡、櫻庭多賀宮、松倉山神社、鬼澤

鬼神宮、追良瀬観音、善知鳥神社、弘前辨天宮、平内雷電宮、十腰内巖鬼山神

社、守山神社、薬師堂熊澤神社、

○ 行岳八幡宮縁起ノ要文抜萃 夫奥州津輕荒磯郷行岳如意山八幡宮者

自神武天皇五十代帝桓武天皇御宇、延暦二年二月上旬、坂上田村麿建立

也焉、風聞於延暦年中、東夷發、東北狄起、惱邊人、幾許不履王法、恣奪取

天下公物、乎因茲今上憂自古遣諸武將、令討其辜、方田今村麿當其仁



耶、誠是磨智而謀、果而惠、外示俗風、內諄眞道、文武二道之英雄也、是故授  
斧節於龍顏、率數万軍兵、雖赴陸府、八狄雲集如、七式霧如、合、不知東西  
于時先奉勸請王城鎮守八幡大菩薩、造立社頭、敢勅命無私旨、祈誓然  
則毛夷、蝗陳一把、草羽狄、械營半掬塵也、依之彌於後代、爲鎮夷狄猛  
虎所々建立堂舍佛閣、先當社八幡宮、都保石文寺、妙見堂北斗寺、羽黑之權  
現、猿賀山、森山滿福寺、藤崎興福寺、國分寺、柏木郷廣福寺、大樹根極樂寺、  
四所靈驗等、其外田村磨建立寺社都合百八箇所也、惣而津輕六郡在家之數、  
貳十四萬家有之云々、復多々爲寺社之所領者、歟若至後代、當社欲破壊之  
時、加修理輩者、中累干、時長祿三年八月十五日、記之右一卷、依經、星霜楮  
紙、逮破故依、大守信枚公之競望、高野山沙門覺應法印補之とあり、都保石  
文寺ハ如斯津輕郡の内なれハ彼名高き碑も此邊にある歟、小山内清隆の説  
に青森に、つゝける大野村の田中、古へ在しと古老のかたりさと恒、予よ  
いへり探り出みたき事なり、此事別記  
委云へし

一 又今一卷ハ奥州行岳、狹大神宮縁起と題せり、卷末貞觀七年五月十五日  
平安沙門大僧都慧運謹誌、奥州東日流行丘如意山寶妙寺八幡宮縁起、畢と  
あり、此社も中世ハ兩部よて殊に鎮守府大將軍贈右大臣顯家公の裔波岡北  
畠氏繁榮中ハ莊嚴美麗よてあり、由本社舊神官ハ有馬千足の家よて永正  
年中播州赤松彦次郎の男浪人よて出羽よ下り夫より當國に來りて同家  
の養子となり名と隼人と云後波岡氏の家老と勤と云其子孫寛保年中故有  
て神職と免さる其後阿倍氏代々神職を勤む當社に古製の胡笳あり古歌に  
「こと吹ハ曇りもする陸奥の夷よなみせり秋夜月とあれども是と吹ハ却  
て氣すみ風生よて面白きものなり大道寺繁禎の歌に

「あまの子が吹なすことさの音受て月影みかく外の濱風

一 本社ハ祭神譽田別尊よて津輕家代々崇敬せり方今郷社也社の傍ハ波岡  
の城墟及ひ古代鬼神の首塚とてあり今ハ鬼神大權現といふ大石碑立り又  
此邊に天皇畑、美人川、強清水、鉄醬平、源常林、古木の銀杏あり乳のな  
さ婦人所て靈驗あり 石垣金光上



人墓及長慶天皇の山陵といふあり委り別に記せり

終

明治十五年十月廿八日出版 同十四年十月廿五日御届濟

青森縣土族 陸奥國中津輕郡  
弘前南川端町十二番地居住

編集人兼  
出版人兼

下澤保躬

同縣 同國弘前本町五丁目

武田莊七

同縣 同國弘前下土手町

石井常吉

同縣 同國南津輕郡尾上村

西谷貞次郎

賣弘所

正誤 一丁裏九行(盛陸)ハ(盛陸)同十一行傍訓(りしり)ハ(かじ  
り)二丁表八行(粉萬)ハ(敷萬)同行(影)ハ(影)同十行(起)ハ(恐)  
同裏三行(神天)ハ(神靈)ノ誤植

二丁裏二行(懼)ハ(懼)同六行(傍訓)ハ(四丁表七行)懼ハ(ハ  
(雪)五丁裏三行(道田命)ハ(田道命)同九行傍訓(やむ)ハ(ハ)ハ  
や一三(六丁裏五行)道廣)ハ(廣道)八丁表十三行(方田今村)ハ(ハ)  
方今田村(九丁表十行)受)ハ(更)ノ誤植



人墓及長慶天皇の山陵といふあり委り別に記せり

終

明治十五年十月廿八日出版 同十四年十二月廿五日御届濟

青森縣土族 陸奥國中津輕郡  
弘前南川端町十二番地居住

編集人兼  
出版人兼

下澤保躬

同縣 同國弘前本町五丁目  
武田莊七

賣弘所

同縣 同國弘前下土手町  
石井常吉

同縣 同國南津輕郡尾上村  
西谷貞次郎

正誤 一丁裏九行(盛陸)ハ(盛陸)同十一行傍訓(りし)ハ(かし)  
ら)二丁裏八行(粉萬)ハ(敷萬)同行(彩)ハ(彩)同十行(怒)ハ(恐)  
同裏三行(神冥)ハ(神靈)ノ誤植

二丁裏一行(懼)ハ(懼)同六行營ノ傍訓(り)ハ(四丁表七行)雪は(ハ)  
(雪を)五丁裏三行(道田命)ハ(田道命)同九行傍訓(やね)ハ(お)  
や)ろ)六丁裏五行(道廣)ハ(廣道)八丁表十三行(方田今村賢)ハ(方  
今田村賢)九丁表十行(受)ハ(更)ノ誤植



